

VI. 研究

1. 研究活動

(1) 研究業績

1) 研究業績基準

<著書>

(1 1 学術書) 博士論文、単・共・編著を問わないが直接執筆に参加した専門書。編者のみの場合は(1 2 その他)とする。

(1 2 その他) 学術書以外の専門分野の著書(教科書、入門書、啓蒙書等)。

<学術論文(原著論文)>

(2 1 学会誌) 学会誌及び専門誌等で査読を受けた論文。

(2 2 紀要) 査読を受けた紀要論文。査読を受けない論文は(2 3 その他)とする。

(2 3 その他) 上記以外の学術論文。

<学術論文(総説)>

(2 4 総説) 学会誌や専門誌などに掲載された総説、解説、展望等。

<翻訳>

(3 1 学術書) 専門書及び専門分野における教科書、入門書等。

(3 2 その他) 専門分野以外の翻訳書。

<作品及び演奏発表等>

(4 1 作品及び演奏発表等)

情報処理による絵、音楽等の作品で公的に発表されたもの。

体育・スポーツの分野における作品で公的に発表されたもの。

(例：ダンス、体操などの発表)

<学会記録>

(5 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で記録に残るもの。

(5 2 特別講演)

(5 3 シンポジウム、パネル)

(5 9 その他)

<口頭発表 記録に残らないもの>

(6 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で、その内容は記録に残らないが発表年月日・機関・題目が残るもの。

(6 2 一般発表)

(6 3 シンポジウム、パネル)

(6 9 その他)

<その他の文筆活動>

(7 1 その他の文筆活動)

公的に発刊された出版物に掲載された著作で、専門・専門外を問わないが業績としてふさわしい水準のもの。

<その他>

(8 1 症例研究(医))

(8 9 その他) 上記の全ての業績区分に含まれないが、業績としてふさわしい水準のもの

(注) 本基準の運用については各学科に任せるものとする。

2) 研究業績一覧

学科	著書		学術論文		翻訳		作品演奏		学会記録		口頭発表		その他の文筆活動		その他		計
	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	
情報処理科	2	—	1	3	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	—	9
国際文化学科	2	—	7	2	—	—	—	—	5	2	—	1	1	—	2	—	22
計	4		13		—		—		10		1		1		2		31

<研究業績表の見方>

著者・発表者	著書・論文・演題名等		
発行所・掲載誌・学会等	巻・号	ページ	発表形態
概		要	

<研究業績内容>

《情報処理学科》

伊津信之介	自立共生の道具		
JSAA-ICJLE2009 国際研究大会			著書 (学術書)
IVAN ILLICH が述べた「Tools for Conviviality」としてフラッシュ WEB 教材や ELMM を活用することについて提案した。			
伊津信之介	「むなかた電子博物館の可能性」		
むなかた電子博物館紀要	創刊号	pp. 24-41	学術論文 (紀要)
「むなかた電子博物館」の建設の理念とプロセス、そして可能性についてまとめた。			
矢原充敏、宮川幹平、徳永克美、佐竹則昭、斎藤守正、高橋守人	メンタリングを重視した e-Learning 導入による高大連携の取組み - 情報系国家資格の取得支援を例として -		
東海大学短期大学紀要	第 43 号	pp. 71-78	学術論文 (紀要)
メンタリングを重視した e-Learning 導入による高大連携の取組みを通して、e-Learning が抱える問題点改善に向けた効果と可能性を考察するとともに、高大連携における高校生指導の在り方を短大・高校の両視点から検討を行ない、高大連携事業の拡充を図る一つの方向性を示した。			
磯口博、佐々木博文、藤本邦昭、矢原充敏	両電源及び単電源仕様演算増幅器に対応するクランプ回路を有する微分形動作単安定マルチパイプ レータ		
電子情報通信学会論文誌	Vol. J93-C No. 3	pp. 105-108	学術論文 (和文学会誌)
提案する微分形動作単安定マルチパイプ レータは、準安定時間を決定する微分波形の電圧が最大定格以内に抑圧され、不感領域に突入することがなく、準安定時間がトリガ周期に影響されることがないことについて述べている。			
矢原充敏、藤本邦昭、廣瀬貴規、佐々木博文	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL Using VCO as Base Clock Source		
ICICIC2009	B04-05, ICICIC-2009-1983		学術論文 (欧文学会誌)
クロック源として VCO を用いた分周比可変型デジタル PLL は、出力ジッタが入力信号の周波数変化に影響を受けないことについて述べている。			
矢原充敏、藤本邦昭、廣瀬貴規、佐々木博文	A Low Jitter of Multi-Phase Clock Dividing Type Multiplier Using Arithmetic Circuit		
ICIC Express Letters	Vol. 3, No. 4 (A)	pp. 1004-1012	学術論文 (欧文学会誌)
低ジッタ特性を有する演算回路を用いた多相クロック型通信回路について提案している。			
八尋剛規	ユーザ参加型マップサーバの開発と運用		
日本産業技術教育学会 第 25 回情報分科会		pp. 5-6	学会記録 (一般発表)
GPS 機器などを利用した位置情報を基にして地図を作成でき、またクライアント環境にできる限り依存しないユーザ参加型の Web アプリケーションシステムの開発の運用実績についての報告			
伊津信之介	WEB 教材による反復可能な授業の効果		
平成 21 年度全国大学 I T 活用教育方法研究発表会			学会記録 (一般発表)
現代文明論 WEB 教材によるノンリニアな学習環境が現在の学生に欠如している思考訓練を可能にする。			
末松泰子	検定対策講座のリメディアル教育的要素～日商 PC 検定《データ活用》の場合～その 2～		
日本リメディアル教育学会第 5 回全国大会 発表予稿集		pp. 123-124	学会記録 (一般発表)
「日商 PC 検定 (データ活用) の対策講座は、自ずから数学のリメディアル教育になっているだろう。」と予想し検証を試みたところ、結果からは必ずしもそうは言えなかった。そこで次年度、リメディアル効果を生み出すべく意識して授業を行い、その効果の検証を試みたものである。			
八尋剛規、小川兼司	GPS ケータイを利用した位置情報共有システムの開発		
モバイル学会 シンポジウム「モバイル 10」		pp. 17-22	学会記録 (シンポジウム)
GPS ケータイなどを位置情報発信デバイスとし、その位置情報を共有するシステムを開発した。さらにグループ内でその利用を考慮したいいくつかの付加機能、あるいはケータイのような小型画面での位置情報表現方法の工夫などを行った。			

《国際文化学科》

神山高行	『十二夜』における異性装とジェンダー		
東海大学短期大学紀要	第 43 号	pp. 55-62	著書 (学術書)
シェイクスピアの喜劇『十二夜』に登場する男装のヒロイン、ヴァイオラを取り上げ、劇における異性装の意味と (セクシュアリティの問題も含めて) ジェンダーの問題について考察した。			
張あんな	らくだ最新中国語		
権歌書房		105 頁	著書 (その他)
このテキストは中国語を学ぶ大学生を対象とした教科書である。発音・文型・会話を中心に構成されたもので、学習者がポイントとなる文法事項を効果的に把握できるように工夫したものである。また、日本人が中国人と接する時に、よく交わされるやりとりを平易な口語からなっている。			
北濱幹士	野外活動を通して「環境教育」を実体験する		
東海大学短期大学紀要	第 43 号	pp. 109-114	著書 (その他)
東海大学福岡短期大学にて開講されている野外活動理論及び実習 I (2009 年度) にて履修学生が野外活動 (実習) を通して、どのような「環境」に繋がる実体験をしているのか、そして実習後の学生レポートをもとに本科目の実習内容及び履修学生の考えを考察するものである。			
大方優子、八坂和史、平屋伸洋、増田士朗	地域ブランド概念と構築プロセスに関する理論的考察—コーポレートレピュテーション概念の地域への応用		
東海大学短期大学紀要	第 43 号	pp. 49-54	学術論文 (紀要)
わが国における地域ブランドに対する取組について、事例を基に概念の整理を行い、その上で、今後の地域ブランドのあり方について検討した。具体的には、近年、一般企業の経営においてその重要性が高まっている「コーポレートレピュテーション」についての概念を、地域の場面に適用することの有効性を論じた。			
竹内裕二	住民参加型の地域づくりとソーシャルビジネスの可能性 —北九州市小倉北区藍島を事例として—		
東海短期大学紀要	第 43 号		学術論文 (紀要)
本論文では、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、企業の社会的責任を広く一般に普及浸透させることを前提として「市民の目線という立ち位置」からソーシャルビジネスをどのように捉え、コミュニティビジネスや企業の社会的責任との関連はどうかということについて、前報 (第 42 号) の紀要で論じた北九州市小倉北区に位置する藍島での島民主体の島づくり活動の動きにおける「島民主体の島づくり行動計画」策定後の実践活動を基に論じた。			
竹内裕二、矢原充敏、八尋剛規、宮川幹平、高橋守人	産官学民協働による地域活性化活動と学生教育の関係		
東海大学教育研究所	第 17 号		学術論文 (紀要)
本稿では、産官学+民の連携による取組を推進するために、講義そのものを仮想的な会社組織として活動した事例について取り上げる。内容としては、この会社組織が業務として「ツアー」を企画立案し、運営するものである。その過程を整理し、①学生の人材育成教育が産官学民協働活動として取組むことの可能性について社会実験を基に検討する。②本取組みの中心となる「まちづくり」活動を教育のベースに敷くことで、産官学連携活動から地域全体で継続的に取組むことのできる産官学民協働活動に移行でき、教育現場に住民が継続して関与することが可能なかについて明らかにする。③学生の人材育成教育とまちづくりとの関わりについて明らかにし、今後の学内運営における課題の整理をするものである。 結論として、産官学民協働活動として学生の人材育成の実効を上げるためには、今回の取組における「地域の活性化」のように、産官学民協働の取組みにおいて利害と目的を共有化することが極めて重要であることが明確となった。また具体的な結果として、教育面では講義を通じて、様々な活動に対する意欲の向上、他の講義に対する積極的な参加や受講姿勢の改善が見られた。さらに学校経営の観点からは、学校と地域社会との連携を深めることに一定の成果を収めることができた。			
張あんな	北京語学研修の成果と課題—主体性の育成をめぐる—		
東海大学教育研究所	第 17 号	75-91 頁	学術論文 (その他)
東海大学福岡短期大学では 1 年生を対象として、北京第二外国語学院での中国語研修を実施した。学生達は自ら学び、考え、問題を見つけて主体的に判断し、問題をよりよく解決する能力を獲得することができた。自分の中に眠っている自信や意気込みを取り戻し、学習意欲に満ちた学生の姿が見られた。教師は学生を主役として舞台上に乗せ、その成果を確認しながらみずからは脇役に徹したことが、学生の潜在能力を発揮せしめたのだと思う。教育は、競争によって勝者と敗者を作り出すべきでなく、また「おちこぼし」を作らないことが、その使命である。本論文は、海外における短期語学研修に関する考察であるが、その語学面ではなく、学習者の主体性獲得に向けて取り組んだ、いわば人格教育面での実践記録である。			
張あんな	広汎性発達障害の疑いのある学生への支援をめぐる		
東海大学福岡短期大学紀要	第 43 号	115-121 頁	学術論文 (その他)
本稿は、一大学教員が発達障害の疑いのある学生への対応に苦闘しながら、その社会適応を扶助した教育実践記録である。当該学生の指導にあたって、まだ発達障害についての理解も不十分な中、その学生の長所を伸ばし、他の学生とは異なる手だてを工夫して、成功体験を積み重ね、目的と自信を持たせた。本稿は、発達障害のある学生を受け入れたとき、個々の教員がどのような対応を取るべきか、また、大学全体としてどのようなシステムを構築していく必要があるのかを検証した。同時に、今後増加の予想される、こうした問題の指導にあたっては、カウンセラーをはじめとする全学的な支援体制が不可欠であることを主張した。			
竹内裕二	北九州新土産「ねんりん小僧」誕生とこれから 産官学民協働による新たな地域活性化		
ひろば北九州	vol. 281	pp. 32-33	学術論文 (その他)
東海大学福岡短期大学 地域総合連携研究室と学生が中心となって「ねんりん小僧」という菓子を考案した。その後、産官学民が協働して、地域の土産品としてのブランドへ育てた。このブランドする過程及び地域活性化との位置づけについて述べた。			
竹内裕二	ソーシャルビジネス考 実践と理論の狭間で		
中小企業と組合	No. 774	pp. 4-6	学術論文 (その他)
最近地域でのビジネスが、注目されている背景として、米国のサブプライムローン破綻に始まった世界的な経済不況により、世界の消費停滞、雇用不安までに発展し、私たちの生活環境が変化したことによって、より顕著になったと考える。そのような時期だからこそ、組織に頼るのではなく、自力で生き残りをかけ、自立した営みを試みようとする人々にとってソーシャルビジネスやコミュニティビジネスに注目が集まっているのも当然であり、企業も地域からの信頼を得るために CSR を推進しているといえる。そこで本稿では、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、企業の社会的責任を広く一般に普及浸透させることを目的に「市民の目線という立ち位置」からソーシャルビジネスをどのように捉え、コミュニティビジネスや企業の社会的責任との関連はどうかということについて論じた。			
竹内裕二	学生教育のための仮想会社『可歩四季開者 T t i m e』— 若者の人材育成と地域活性化を組合せた自立的発展戦略のための新たな教育手法 —		

地域開発	vol. 539	pp. 33-37	学術論文 (その他)
若者の離職増加は、企業活力を減退させるばかりでなく、地域全体の自立的発展戦略を阻害するものでもある。このような観点から、若者の早期離職を減少傾向に導くことは、企業経営における人材育成に対するコストダウンに直結しており、大局的な視点から見れば日本の社会経済活動の基礎となる部分での活性化に寄与すると言える。本稿では、本取組の背景と実施に至るまでの経緯、仮想会社及び活動の概要について述べた。			
竹内裕二	仮想会社と通じた人材育成と産官学民による地域活性化活動 ―学生教育のための仮想会社『可歩四季開者 Time』を事例として―		
日経研月報	第 374 号	pp. 68-74	学術論文 (その他)
若者の離職増加は、企業活力を減退させるばかりでなく、地域全体の自立的発展戦略を阻害するものでもある。このような観点から、若者の早期離職を減少傾向に導くことは、企業経営における人材育成に対するコストダウンに直結しており、大局的な視点から見れば日本の社会経済活動の基礎となる部分での活性化に寄与すると言える。本稿は、本取組の背景とこれまで実施した代表的活動の紹介とその効果について述べた。			
竹内裕二	住民参加型の活動と継続することの難しさ ―平成 21 年度「北九州港まちづくり大賞」受賞によせて―		
北九州港	第 90 号		学術論文 (その他)
北九州港開港 120 周年を記念して、「北九州港まちづくり大賞」を「われら海岸探偵団」というボランティア団体が受賞した。この団体は、発団以来 8 年以上毎月 1 回の海岸清掃活動を行っている。しかも、参加者数が継続して多い。本稿では、この活動のメカニズムに関する概要について述べた。			
神山高行	“男装する身体―『十二夜』のヴァイオラの場合”		
日本英語表現学会 第 38 回大会			学会記録 (一般発表)
シェイクスピアの喜劇『十二夜』の男装のヒロイン、ヴァイオラを取り上げて発表した。エリザベス朝演劇の慣習である少年俳優の存在や異性装 (男装) に対する当時の見解に触れながら、ジェンダーとアイデンティティーという二重の混乱が仕掛けられた劇の中で、ヴァイオラの男装によって生じる外面と内面の乖離とその繊細な心理について中心に論じた。			
大方優子	旅行先への再訪行動に関する理論的考察		
日本観光研究学会第 24 回全国大会論文集		pp. 369-370	学会記録 (一般発表)
旅行者行動に関する既存の議論を整理したうえで、旅行者が特定の旅行先を再訪する際の要因について理論的考察を行い、そこから地域の観光政策に対する示唆を導出した。			
大方優子	旅行先における活動の類型―韓国における日本人旅行者を事例として		
韓国日本近代学会第 19 回国際学術大会講演論文集		pp. 238-244	学会記録 (一般発表)
地域が旅行者に対して提供している活動について、その性質や形態から整理し、それぞれのパターンにおけるマーケティング上の課題について検討した。事例として、韓国における日本人旅行者の活動を取り上げた。			
大方優子	日本における地域ブランドの現状		
韓国日本近代学会第 20 回国際学術大会講演論文集		pp. 285-288	学会記録 (一般発表)
日本における地域ブランドに対する取組について現状分析を行い、問題点を整理した上で、今後の地域ブランドのあり方について検討した。			
大方優子	旅行先への再訪行動に関する研究―再訪行動が生起する過程について		
日本観光研究学会第 24 回全国大会論文集		pp. 241-244	学会記録 (一般発表)
旅行先への再訪行動が生起する過程について、旅行者の心理的側面から探索した。まず、調査によって得られたデータをもとに、行動の内容や旅行者の心理的背景に基づき再訪行動の類型化を行い、そのうえで旅行先再訪行動が生起する過程についてのモデルを提示した。			
八坂和吏、大方優子、平屋伸洋、増田士朗	コーポレート・レピュテーションの形成に関する実証研究		
経営情報学会 2009 年秋季全国研究発表大会予稿集 (CD-ROM)			学会記録 (一般発表)
近年わが国においても注目が高まるコーポレート・レピュテーション (CR) について、その形成プロセスを検討した。具体的には、ステークホルダーにおける CR の形成プロセス、また CR の類似概念であるコーポレートイメージ、コーポレートブランドとの関係性について、調査データをもとに分析し、予備的考察で提示された仮説の検証を試みた。			
八坂和吏、平屋伸洋、大方優子、増田士朗	コーポレート・レピュテーション概念に関する予備的考察		
経営情報学会 2009 年春季全国研究発表大会予稿集 (CD-ROM)			学会記録 (一般発表)
近年注目が高まりつつあるコーポレート・レピュテーション (CR) について、これまでの CR についての研究の展開をたどり、その概念の整理と類似概念との比較検討を行った。			
竹内裕二、矢原充敏、八尋剛規、宮川幹平、高橋守人	地域協働参画型インターンシップ授業の実践的研究 第三報―本授業における企業の関わりについて―		
日本教育工学会	第 25 回	pp. 337-338	口頭発表 (一般発表)
本論文は、本講義における継続的な企業の関わりについての仕組みを明確にし、特異例としての関わりでなく、一般例としての関わりになるための課題についてまとめる。特に、文科系の講義において、工学部系の講義のように企業が継続的に講義に関与するという事例は一般的に見て少ない。そこで、共同技術研究のような事例以外においても、企業が大学の講義に対して企業に継続して関与してもらうためには、どこに課題があり、大学側、企業側双方において、どのような工夫が必要なのかについて、実践的活動の観察と経験の中から検討し、方針を導き出したものである。			
宮内順	福岡近県の中国人来訪外客実態調査報告		
観光文化研究所所報	第 13 号	pp. 3-12	その他の文筆活動
九州における中国人来訪外客の実態調査は、西南女学院大学人文学部観光グループとの共同研究として、2008 年度から実施している。この報告は、2008 年度の福岡県の調査に引き続き、福岡近県 (長崎、佐賀、大分) におけるインバウンド関係の 15 機関 (地方自治体、観光協会、宿泊施設、テーマパークなど) を対象に、中国人旅行者の受け入れの現状について聞き取り調査を行ったもの。中国からの旅行者誘致の重要性が指摘されているが、現実には誘致活動、受け入れ体制の整備など多くの課題を抱えており、とりわけ人材育成が急務になっていることが、実態調査によって浮き彫りになった。			
大方優子	観光地におけるリピーターの心理		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第 13 号	pp. 17-22	その他

旅行者が特定の観光地を繰り返し訪れる際の心理について考察し、観光地へのリピート訪問が発生する心理的プロセスをモデルとして提示した。			
北濱幹士	昭和37年に発刊された「続・九州路の魅力」より宮崎を探る		
東海大学福岡短期大学 観光文化研究所 所報	第13号	pp.37-42	その他
「続・九州路の魅力」より宮崎県が紹介されている宮崎県内の各地を訪れ、現代との様変わりを捉えるものである。			
竹内裕二	離島問題と観光地化に向けた島づくりの可能性（実践活動編） — 北九州市 小倉北区 藍島を事例として —		
東海大学福岡短期大学 観光文化研究所 所報	第13号		その他
本論文では、北九州市小倉北区に位置する藍島での島民主体の島づくり活動の動きにおける「島民主体の島づくり行動計画」策定後の実践活動を基に市民の実践的活動による離島の観光化の可能性について論じた。			

3) その他の社会活動

- a. 専任教職員による官公庁等学外機関、本学園の広報機関等への公的な発表、専門知識や学識経験等を生かした活動

<研究業績表の見方>

発表者・活動者	テーマ・タイトル
	発表・活動の場所もしくは取組名称
	概要

<研究業績内容>

宮内順	地域旅の体験ナビゲート
福井市「観光ビジネス実践塾」	
福井市観光開発室の実施している人材育成講座「観光カレッジ」の講師として、着地型観光の基本的な考え方、地域における取組の技法、人材育成について、福井市関係の観光事業者を対象に講演。	
宮内順	持続可能な事業の構築
やましろ体験交流センター	
山口県では全県をあげて、着地型観光による地域振興を推進しており、この講演会は岩国市北部のやましろ地域における「地域の特性を生かした持続可能な事業の構築についての勉強会」として開催されたもの。着地型観光の考え方、地域における観光資源の再評価、インタプリターの育成及び体験交流型観光の開発について講演を行った。	
北濱幹士	英語に触れてみよう
福岡県宗像市市民講座（ルックルック講座）	
「英語!」「外国語」と捉えず、日常的に使用している「日本語英語」から英語への親しみをもち、学びへと繋げる。（今回は、小学校高学年での外国語必修化に関して河東西小学校教員への教員研修講座）	

- b. 専任教員による研究所・官公庁・民間等の学外機関から委嘱を受け、専門知識学識経験を生かした公的活動

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
末松 泰子	宗像市	宗像市人づくり・まちづくり研究所研修講師
宮川 幹平	宗像市	宗像市情報化推進委員
宮川 幹平	福岡県立筑豊高等学校	社会人招聘授業講師
八尋 剛規	福岡市教育センター	検証授業講師
八尋 剛規	福岡市教育センター	研究発表会事前指導講師
八尋 剛規	福岡市教育センター	研修会講師
大方 優子	宗像市	宗像市総合公園管理公社理事（監事）委員
大方 優子	宗像市	宗像市都市計画審議委員
大方 優子	大邱（テグ）大学校	シンポジウム講師
竹内 裕二	芦屋町	指定管理者選定委員会委員
竹内 裕二	黒畑市民センター	ステップアップ事業講師
竹内 裕二	新日鐵化学株式会社	職員研修講師
竹内 裕二	北九州市立年長者研修大学校「周望学舎」	生涯学習講座講師
竹内 裕二	福岡県立若松商業高等学校	社会人特別講師
竹内 裕二	美萩野女子高等学校	社会人招聘授業講師
竹内 裕二	北九州市	北九州市水際線利用協議会委員
竹内 裕二	福岡県	芦屋の里浜づくり実行委員会委員長
竹内 裕二	芦屋町	住民参画研究グループコーディネーター講師
竹内 裕二	内閣府	地域活性化勉強会講師
竹内 裕二	嘉麻市	地域福祉部研究事業講師
竹内 裕二	北九州市立浅川小学校	校内研修会講師

竹内 裕二	大邱(テグ) 大学校	シンポジウム講師
竹内 裕二	福岡県立ひびき高等学校	近未来ガイダンス講師
真下 仁	宗像市	宗像市男女共同参画推進懇話会委員
宮内 順	宗像市	宗像市地域公共交通活性化協議会委員
宮内 順	宗像市	大島牧場用地等の貸付を受ける者の選考委員
宮内 順	宗像市	むなかた季良里認定事業委員会委員
宮内 順	福岡県立ひびき高等学校	近未来ガイダンス講師

c. 専任教員による学会等の運営に関する活動

氏名	学会名	委員名
赤井 ひさ子	アジア教育史学会	理事
赤井 ひさ子	アジア教育学会	理事
赤井 ひさ子	日本南アジア学会	実行委員

d. 専任教員による外部の大学への非常勤出講

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
大方 優子	九州産業大学	非常勤講師 2009. 10. 1～2010. 3. 31 秋1コマ
佐竹 則昭	九州共立大学	非常勤講師 2009. 4. 1～2009. 9. 30 春2コマ
宮内 順	サイバー大学	非常勤講師 2009. 4. 1～2010. 3. 31 インターネット 通年2コマ
宮川 幹平	西南学院大学	非常勤講師 2009. 4. 1～2010. 3. 31 通年2コマ
矢原 充敏	熊本県立技術短期大学	非常勤講師 2009. 4. 1～2010. 3. 31 通年1コマ
八尋 剛規	北九州市立大学	非常勤講師 2009. 4. 1～2009. 9. 30 春1コマ・春集中1
八尋 剛規	福岡教育大学	非常勤講師 2009. 10. 1～2010. 3. 31 秋2コマ・秋集中1
貝田 翔二	東海大学熊本校舎	非常勤講師 2009. 4. 1～2010. 3. 31 通年3コマ

(2) 海外活動

専任教員による海外での活動(講演・調査・研究等)

氏名	目的	期間	国名
大方 優子	研究発表	6月12日	韓国
伊津 信之介	論文発表	7月13日～7月16日	オーストラリア
伊原 奉賢	韓国短期留学引率	8月5日～8月18日	韓国
赤井 ひさ子	科研費補助金による研究	8月22日～9月20日	インド
神山 高行	ハワイ短期留学引率	9月8日～9月21日	アメリカ
大方 優子	研究発表	11月27日～11月29日	韓国
矢原 充敏	国際会議	12月6日～12月10日	中国
赤井 ひさ子	科研費補助金による研究	2月9日～3月15日	インド
チョウ アンナ	中国短期留学引率	2月28日～3月13日	中国

(3) 科研費応募・採択状況

	応募件数	採択件数
研究代表者分	1(新規1)	1
研究分担者分	1(新規1)	1

1) 本学専任教員が研究代表者であるもの

研究課題	地域の初等教育を担う人材の育成： インド・オスマナバード県を事例とする実証的研究
研究種別	基盤研究(C)
研究代表者	赤井 ひさ子 准教授
補助金額	170万円(平成21:60万円、同22:60万円、同20:50万円)

2) 本学専任教員が研究分担者であるもの

研究課題	短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究
研究種別	基盤研究 (B)
研究代表者	安部 恵美子 長崎短期大学・保育学科・教授
本学研究分担者	末松 泰子 准教授
補助金額	平成 21~24 年度：平成 21 年度 本学への直接経費 10 万円

2. 研究のための条件

個人研究費は、2002 年度より、研究の活性化および研究費の効率的運用のため、2 段階支給を採用している。まず、教員全員に一律 15 万円が配分される他に、特別研究費枠（第 1 種から第 5 種）を設け、積極的に研究活動を行う教員には必要なより多くの研究費が配分される仕組みを作っている。なお、2006 年度から若手教員育成支援として学位（博士）審査経費についても対象とした。申請の条件は、本学内規の「特別研究費の取り扱いに関する規定」に明記されているが、FD 委員会及び企画調整会議で検討された上、教授会で審議・決定される。

(1) 研究費

各個人単価 15 万円

(2) 特別研究費

1) 特別研究費に関する規定

特別研究費の種別については、次の 5 種とする。

第 1 種：

国内外の学会・研究会での発表、論文投稿・掲載・別刷りなど研究成果の公表に必要な経費等の補助

第 2 種：

個人・グループ・学科の研究開発（教育に関する研究開発も含む）に対する経費の補助

第 3 種：

私大教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行）及び特別補助（事業団執行）への申請のための 2 分の一財源の補助（確保）

第 4 種：

学位（博士）審査の申請、及び、審査上必要となる経費（申請費用・旅費・博士論文別刷り代など）の補助

第 5 種：

その他、上記以外で特に必要と思われる研究開発（教育に関する研究開発も含む）の補助

特別研究費の取り扱いについては以下の通りとする。

- 特別研究費の申請は、随時 FD 委員会で受け付けする。申請期限は、12月31日までとする。
- 特別研究費申請の採択については、FD 委員会の予備審査を経て、企画調整会議で審査する。
- 第 1 種のうち、海外で開催される学会への旅費は総研 A 計画に準じて上限を 15 万円とする（年度につき教員一人あたり最大 2 回まで）。
- 第 1 種のうち、国内で開催される学会への旅費は原則として上限 5 万円とする（年度につき教員一人あたり最大 4 回まで）。
- 第 2 種は、個人・グループ・学科共、当面申請額について精査し、補助額を決定する。
- 申請が採択された場合、特別研究費による研究活動について、当該年度中に報告書を提出しなければならない。なお、報告書の書式は任意とし、提出先は FD 委員会とする。

※補足

- 同一行程における複数学会発表の第 1 種申請の旅費支給の上限は 50,000 円（国内で開催される学会の場合）
- 第 1 種申請の学会発表に伴う補助は、旅費（宿泊費は除く）及び学会参加費とする。

2) 2009年度特別研究費実績

種別	申請者	発表学会・研究会名	研究（開発）課題名	決定額
1種	神山 高行	日本英語表現学会（JASEUS） 第38回大会・総会	男装する身体ー『十二夜』のヴァイオラの場合	50,000円
1種	伊津 信之介	ISAA-ICJLE 2009 年度研究大会	自立共生の道具	134,076円
1種	伊津 信之介	法人私立大学情報教育協会	現代文明論WEB教材によるノンリニアな授業の効果	50,000円
1種	大方 優子	日本観光研究学会	旅行先への再訪行動に関する理論的考察	45,100円
1種	大方 優子	韓国日本近代学会国際学術大会	旅行先における活動の種類ー韓国における日本人旅行者を事例としてー	37,105円
1種	伊津 信之介	第27回エントロピー学会シンポジウム	近代の終焉に遭遇してファームングを志す	47,340円
1種	矢原 充敏	The Fourth International Conference on Innovative Computing, Information and Control	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL Using VCO as Base Clock Source	199,129円
1種	張 あんな	第14回東海大学授業研究会	北京語学研修の成果と課題	36,130円
1種	伊津 信之介	平成21年度情報教育研究集会	フラッシュWEB教材からE LMMへ	53,000円
2種	八尋 剛規	リアルタイム授業評価をケータイに対応させているが、近日、学生は携帯電話以外の携帯端末（ゲーム機、携帯音楽プレーヤー）を所有する率が高く、これらの端末への対応を行う。これらの対応には実機が不可欠であり、これらの購入補助をお願いしたい。また、授業資料提示のためのアイテムとしての活用方法も模索したい。	リアルタイム授業評価に関する研究ー対応端末拡大ー	46,600円
5種	北濱 幹士	学内外における実習、学生生活動及びリーダーズ研修会、オリエンテーションキャンプ等を題材とした継続的学生の意識調査研究及び第41回海外研修航海、望星丸にて研修中の学生に対し、洋上での余暇に関する調査	研究資料収集、実践教育の記録	80,760円
1種	大方 優子	経営情報学会 2009 年秋季全国研究発表大会	コーポレート・レピュテーションの形成に関する実証研究	25,980円
1種	大方 優子	日本観光研究学会第24回全国大会	旅行先への再訪行動に関する研究	52,660円
1種	大方 優子	韓国日本近代学第20回国際学術大会	日本における地域ブランド戦略の現状	25,700円
1種	八尋 剛規	シンポジウム「モバイル'10」	ケータイを利用した位置情報共有システムの開発	43,880円

(3) 研究に係る経費**2009 年度決算 研究経費**

項 目	情報処理学科	国際文化学科	合 計
用品費	278,250	208,360	486,610
消耗品費	564,285	607,841	1,172,126
図書資料費	187,843	249,760	437,603
旅費交通費	667,953	750,184	1,418,137
印刷製本費	0	12,000	12,000
通信運搬費	0	2,990	2,990
修繕費	0	0	0
賃借費	0	0	0
諸会費	248,934	94,000	342,934
委託費	0	0	0
雑費	0	4,000	4,000
合 計	1,947,265	1,929,135	3,876,400